

平成28年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT28042

プログラム名 目に「見えない」しょうがいをもつ人と、会って、話して、遊んでみよう



開 催 日: 平成28年9月24日(土)

実 施 機 関: 日本赤十字北海道看護大学

(実施場所) (学生食堂)

実施代表者: 吉谷優子

(所属・職名) (看護学部・講師)

受 講 生: 小学生2名、中学生22名、高校生1名

関 連 URL:

【実施内容】

1.プログラムの目的

今、日本でも、世界でも、しょうがいがあってもふつうに暮らせる「ノーマライゼーション」を目指しています。しょうがいの中でも「せいしんしょうがい」は、見た目にはわかりにくく、「こころ」、「せいしん」の働きの一部に「しょうがい」があり、体の動きには困ってなくても、生活の中で配りよが必要です。もちろん、しょうがい者自身も、自分で健康な生活ができるように、自分自身でも配りよをして、また、必要な支援を受けて、生活しています。

このプログラムでは、将来を担う子ども達がしょうがい者と触れ合う機会を設け、しょうがいの中で、特に見た目にはわかりにくい「せいしんしょうがい」を持つ人との交流を通して、しょうがいの多様性と必要な支援、「ノーマライゼーション」実現について考える機会を設けました。



写真: 講義の様子



写真: 話し合う子ども達・大学生としょうがい者

2.研究成果を伝えるために工夫した点

最初に「講義: ノーマライゼーション社会の実現を目指して」で、せいしんしょうがいの説明、せいしんしょうがいの生活の場が病院に限られがちであった昔の時代からの歴史、せいしんしょうがいの者のふだんの生活、就労支援活動について説明しました。子ども達の生まれたころ、大学生のお兄さんお姉さんの生まれたころの日本の精神(せいしん)科病棟は、どのぐらいの平均在院日数なのか、グラフを用いて説明しました。

歴史を説明するだけでなく、ノーマライゼーションが進んできた歴史の結果として、今地域で生活しながら就労をめざして訓練をしている「社会福祉法人 北の大地」に通所中のしょうがい者に協力を得ました。

3.受講生の活発な活動を促すために工夫した点

考えを表現する方法として、もしも言葉で行うと、しょうがいや年齢によって、得意な人と苦手な人がいて、考えを表現できないままプログラムが終わってしまう人が出てしまうと考えたため、少人数のグループでの「意見交換」をし、表現方法としては絵画制作を行い、意見を考えるのが苦手な人は絵をぬるとか、絵が苦手な人は意見をのべるとか、みんなが何かを表現することができるよう工夫しました。楽しく、短時間で絵を仕上げることができるように、色画用紙とハサミ、のりを用意し、水彩だけでなく切りはりができるようにしました。

講義を参考にしょうがい者と子ども達、大学生を交えた7人ぐらいのグループで「ノーマライゼーションが実現したしょう来の町」というテーマの絵をかくて、そのあと、みんなの前で絵を示しながら、それぞれのグループの人に意図を説明してもらいました。

絵画作成の間に昼食休憩(けい)の時間を設け、交流と意見交換の促進を図りました。また、子ども達と年れいが近い若い大人として、大学生も各グループに入り、話し合いや制作が活発に行えるように配りよしました。



写真:話し合った結果を絵にします



写真:みんなに絵の意図を発表します

プログラムの最後に、希望者での大学内見学を行い、ノーマライゼーションの促進にとどまらない、幅広い看護学のイメージを持てるよう工夫しました。

4.当日のスケジュール

- | | |
|-------------|---|
| 9:30-10:00 | 受付 |
| 10:00-10:05 | 開校式:挨拶 オリエンテーション |
| 10:05-10:20 | 講義「ノーマライゼーション社会の実現を目指して」(講師:吉谷優子) |
| 10:20-10:25 | 休憩 |
| 10:25-10:30 | アイスブレーキング(緊張緩和と交流を図る軽いゲームで軽く体を動かす) |
| 10:30-10:40 | グループ学習のオリエンテーション(作業場所・注意事項・画材使用方法や配分) |
| 10:40-11:25 | グループに分かれ、障害の体験、障害者との交流の体験、などを語り合いながら、「ノーマライゼーションが実現された将来のまち」という絵を各グループで作成 |
| 11:25-12:10 | 休憩・交流しながら昼食 |
| 12:10-12:55 | グループに分かれ、障害の体験、障害者との交流の体験、などを語り合いながら、「ノーマライゼーションが実現したしょう来の町」という絵を各グループで作成 |
| 12:55-13:30 | 作品発表会 |
| 13:30-14:00 | 修了式(未来博士号授与) |

14:00-14:10 記念撮影

14:10-14:40 グループに分かれ、アルバイト学生・実施者引率にて大学内施設の見学

14:40-14:50 アンケート記入・終了・解散

(14:50～15:30 実施者および実施協力者の大学生で後片付け)

(14:50～15:00 実施者および実施協力者の障害者で簡単な後片付け)

5. 事務局との協力体制

事務局で委託費の管理と支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整と提出書類の確認・修正等を行っていただきました。また、協力施設への依頼公文書の作成、アルバイト学生や協力者への謝金支払い手続き、受講生の保険加入手続き、会場の音響機器等の設営、アンケートの集計などの協力を得ました。授業や他の行事に差し支えないように準備・実施できるように、連絡を密にして準備、実施できました。

6. 広報

北見市小中学校を中心にチラシ・ポスターを配布、コミュニティ紙に広告をけいさいしました。昨年度参加者宛に、お誘いのお手紙を送りました。

7. 安全等への配りよ

協力を得たしょうがい者については、本人だけでなくふだん援助している社会福祉法人職員からみても、プログラムに適性がある人を選出しました。特に、長い時間のプログラムとなるため、しょうがい者の体力を確認しました。また、体調不良や症状悪化があれば無理をしないで申し出るよう、事前に説明しました。しかし、体調不良等は起こりませんでした。

8. 今後の課題

今回は、日程を決めるときから、本学で実施可能な日が限られており、近隣の学校でも行事が重なっていたので、参加する児童・生徒の募集が難しかったと考えます。ただ、今後も、降雪のない時期に行いたいと考えますので、限られた期間の中で、近隣の学校とより細かに調整したいと思います。

このプログラムを通して、実際に子どもとしょうがい者が交流することで、子どもたちが「ノーマライゼーション」を実感する有意義な機会になったと考えます。

【実施分担者】

河原田 榮子 看護学部・教授

中岡 良司 看護学部・教授

【実施協力者】 21名

【事務担当者】

経理課・主査・植村公一